

国立大学病院長会議 緊急記者会見

令和6年7月26日 一般社団法人国立大学病院長会議 会長 大鳥精司



一般社団法人
国立大学病院長会議
National University Hospital Council of Japan

国立大学病院 令和5年度決算概要（速報値）

令和5年度 決算概要（損益速報値）

- 収益は、コロナへの対応と高度医療の両立により、収益合計では**対前年度比184億円**の増加
- 費用は人件費68億円と、診療経費573億円が増加し、費用合計で**対前年度比629億円**の増加
- 以上の結果、**令和5年度の経常損益は▲60億円、法人化後の経営努力もつい限界に。**

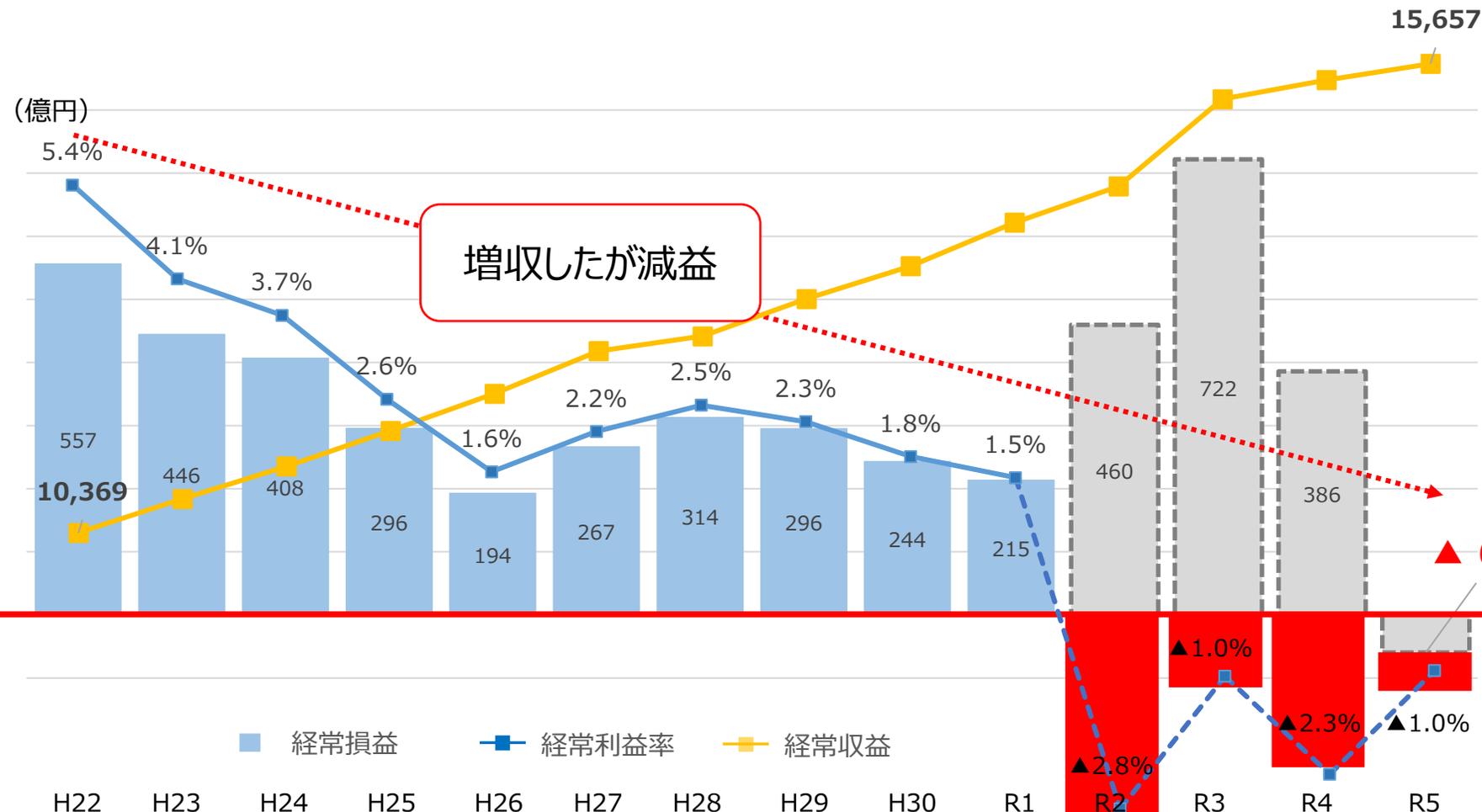
(単位：億円)

	事項	令和5年度	令和4年度
収益	附属病院収益	13,615	12,939
	運営費交付金収益	1,131	1,127
	その他収益	818	661
	病床確保料等	93	746
	計	15,657	15,473
費用	人件費	5,542	5,474
	診療経費	9,540	8,967
	その他経費	634	646
	計	15,716	15,088
経常損益		▲ 60	386

費用の大幅な増加により、経常損益は悪化している

増収減益傾向の結果、経常損益はついに赤字

- 令和5年度の経常損益額は▲60億円（法人化後国立大学病院初の赤字）（コロナ補助金や診療報酬特例等の支援を含む）
- 要因は令和5年度途中のコロナ補助金の廃止に加えて、働き方改革への対応による人件費の増加と医療費の増加と物価高騰の影響
- 令和6年度の診療報酬改定の増加額は人件費に充当するため赤字幅はさらに増加する事を予測



令和5年度の経常収益は平成22年度と比較して約1.5倍

増収したが減益

令和6年度以降

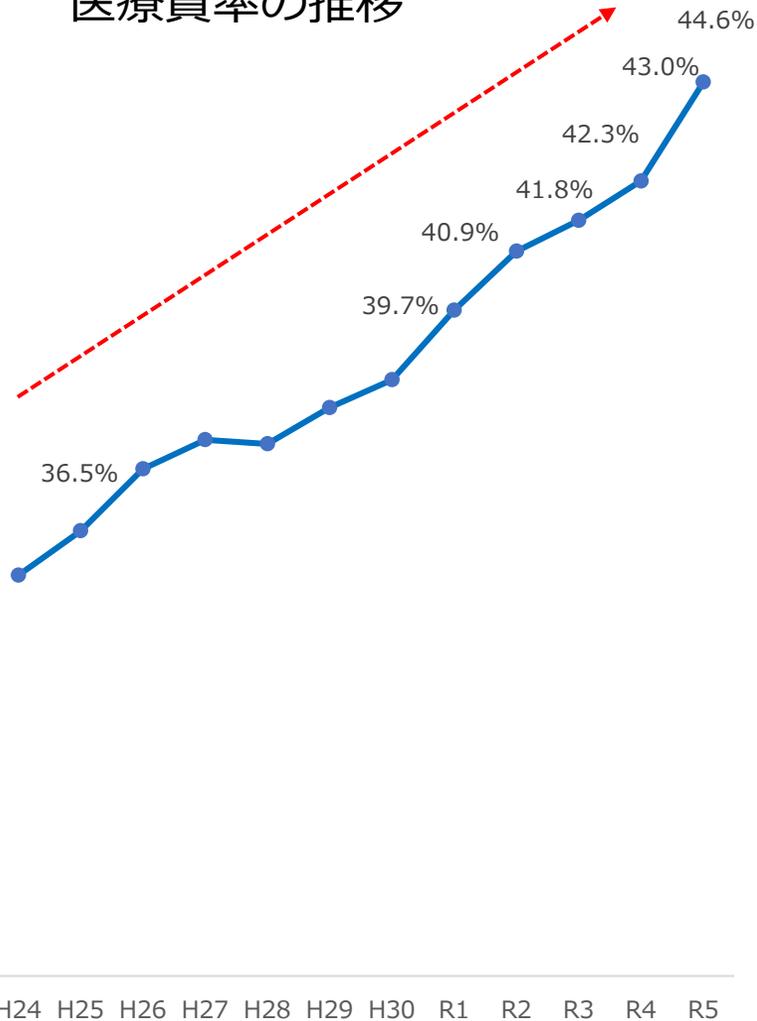
- 診療報酬改定の増加額は人件費の増額に充当

大学病院としての事業継続の危機

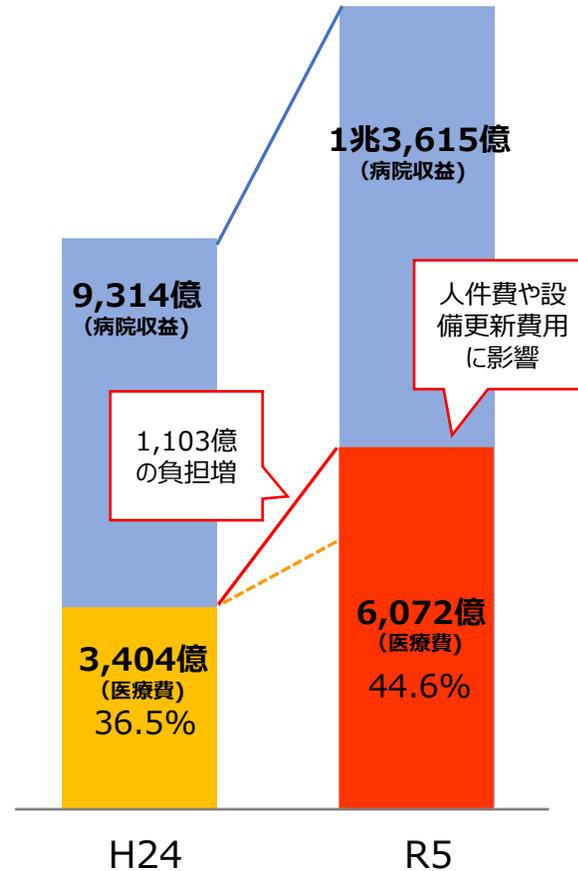
出典：財務諸表（病院セグメント情報） 国立大学病院長会議調べ
 ※統計数値を確認可能な平成22年度以降において、国立大学病院初めての赤字

高難度治療により医療費率が上昇

医療費率の推移



医療費率の上昇に伴う医療費の増加



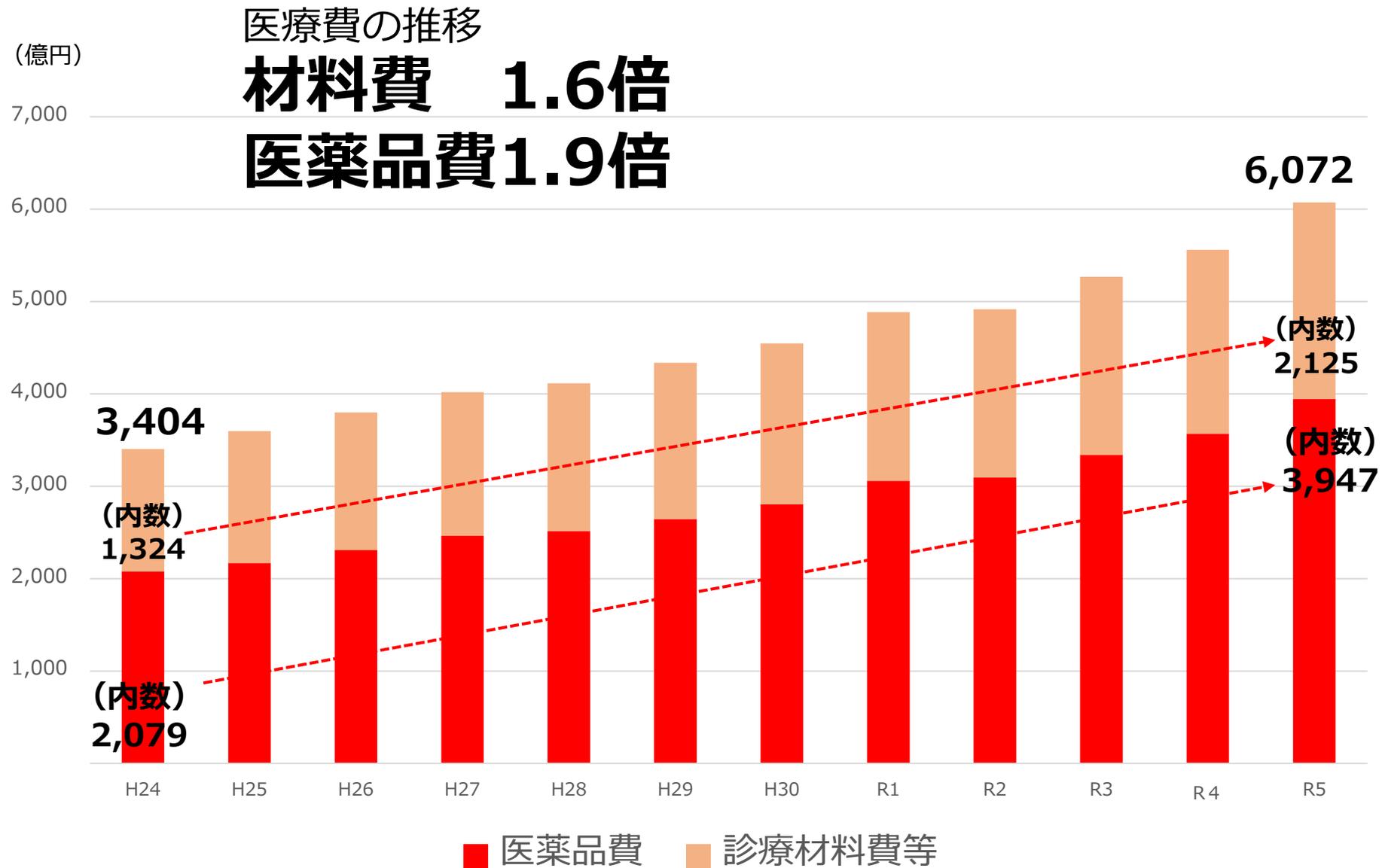
- 医療の高度化に伴い**医薬品費率、材料費率が急上昇**
- 11年間で8.1%の医療費率の上昇**
- 令和5年度病院収益 1兆3,615億円に対して、医療費率は44.6%となった。これは平成24年度の医療費率36.5%より**1,103億円の支出増となる**
- 増収減益により利益率が低下し、**老朽化する医療機器の更新や新規投資の資金確保が困難**
- 今後継続して必要となる委託費高騰や物価高騰等への対応が必要であるが、医療費率の急増は経営に大きく影響していく

H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5

医療費出典：財務諸表（病院セグメント情報） 国立大学病院長会議調べ

医療費 = 医薬品費 + 診療材料費等

高度先進医療の提供に伴う医療費（特に医薬品費）の増加



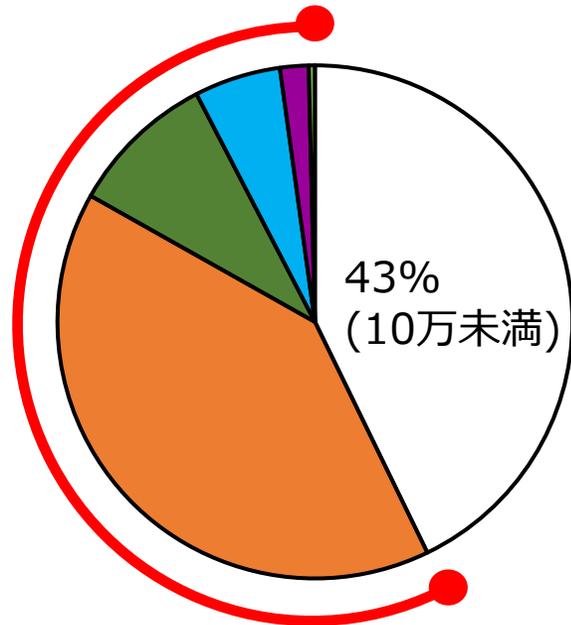
医療費の内訳として、**医薬品費の増加**が著しく、平成24年度と比較して、**1,868億円の増加**となっている。

医薬品費増加の要因分析

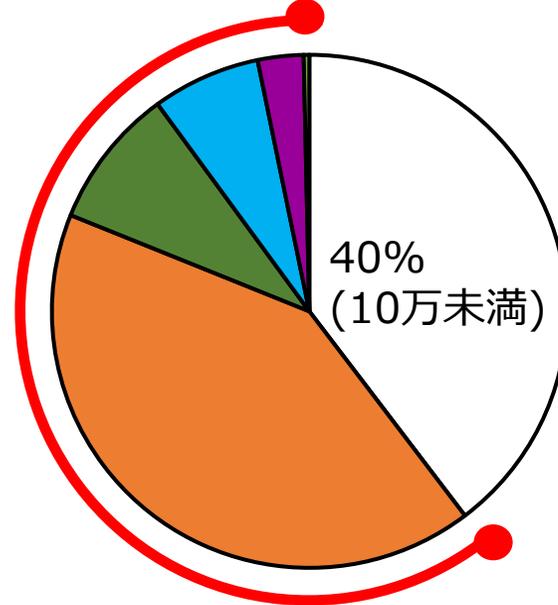
薬価10万円以上の医薬品の急増（令和3年度～令和5年度）

※金額ベース割合

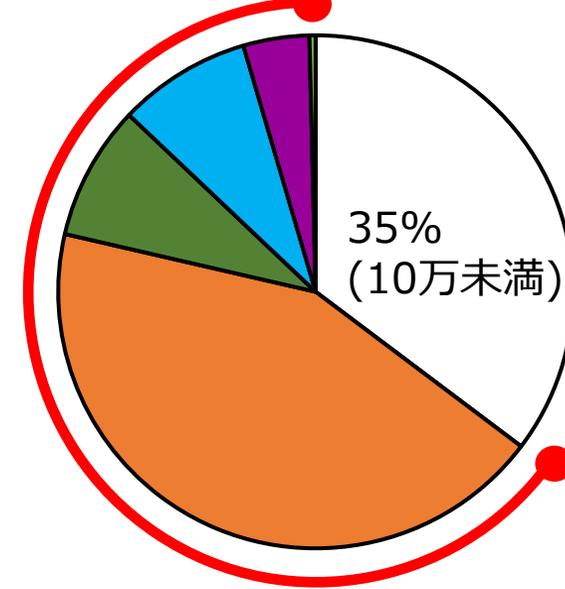
令和3年度



令和4年度



令和5年度



薬価10万円以上の割合 **57%**

薬価10万円以上の割合 **60%**

薬価10万円以上の割合 **65%**

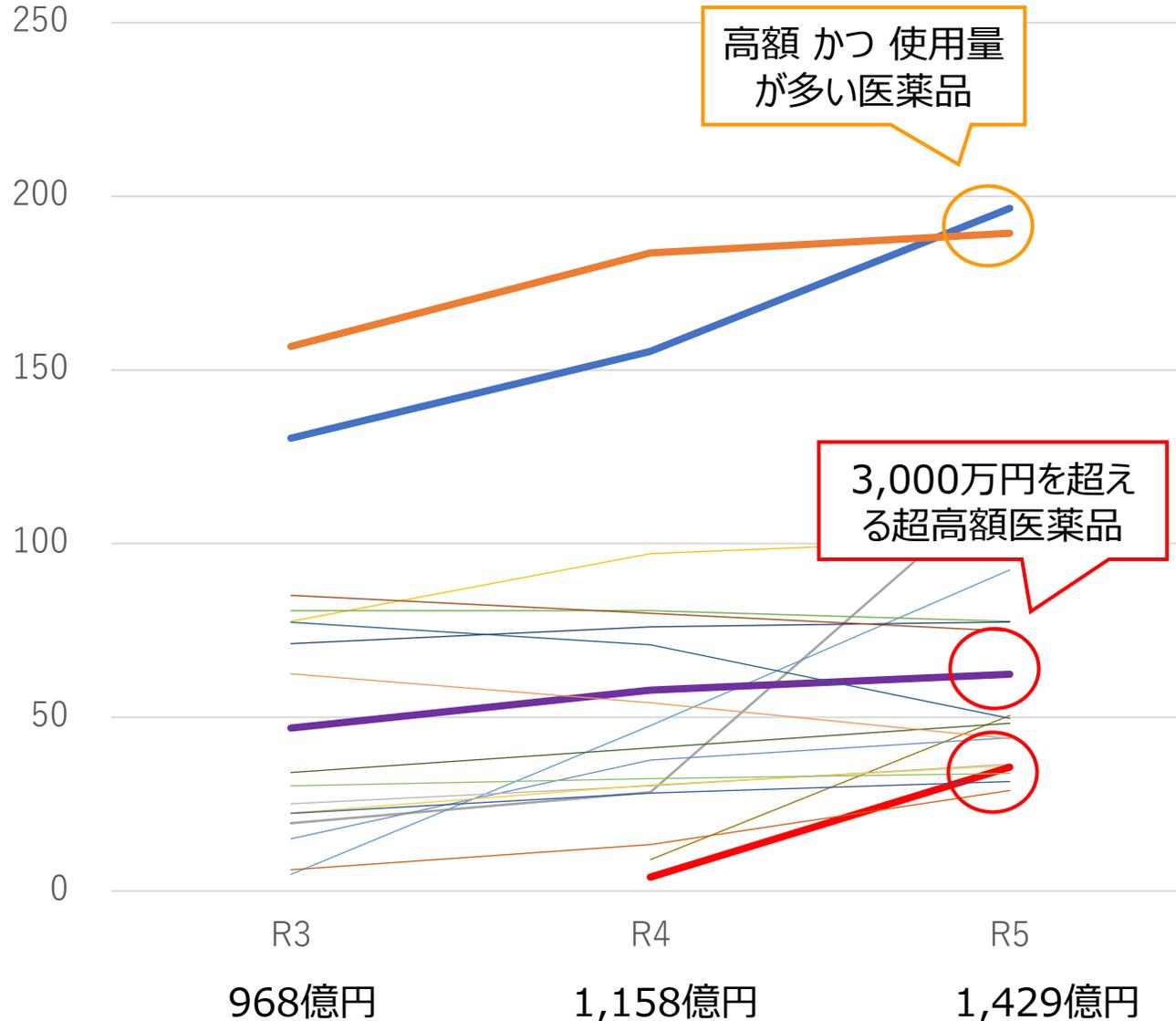
- 10万未満
- 10万以上50万未満
- 50万以上100万未満
- 100万以上1000万未満
- 1000万以上1億未満
- 1億以上

医薬品費の増加は、**薬価10万円以上の高額な医薬品が急増していることが要因**となっている

医薬品費増加の要因分析

医薬品使用額 上位20品目（令和5年度）

(単位：億円)



R5上位20品目の一覧

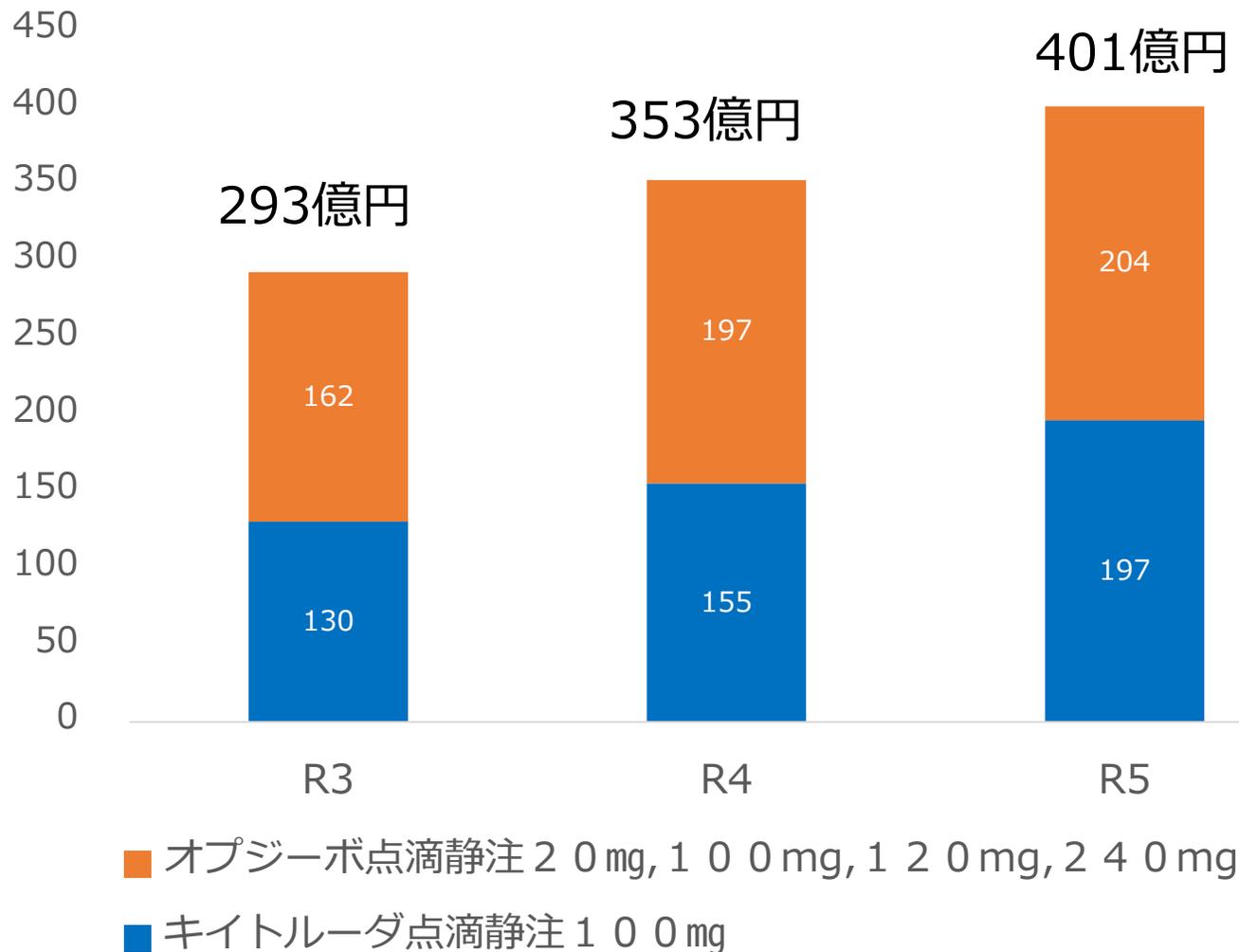
品名	薬価 (円)
キイトルーダ点滴静注 100mg_4ml	214,498
オブジーボ点滴静注 240mg_24ml	366,405
イミフィンジ点滴静注 500mg_10ml	413,539
ステララ皮下注 45mgシリンジ_0.5ml	380,227
ユルトミリスHI点滴静注 300mg/3ml	699,570
テセントリク点滴静注 1200mg_1200mg20ml	563,917
照射濃厚血小板-LR「日赤」_10単位約200ml	81,744
アイリーア硝子体内注射用キット 40mg/ml_2mg0.05ml	137,292
キムリア点滴静注	32,647,761
アムヴトラ皮下注 25mgシリンジ_0.5ml	7,810,923
アバスチン点滴静注用 400mg/16ml	114,527
イラリス皮下注射液 150mg_1ml	1,526,075
ガラキュー口配合皮下注_15ml	445,064
レミケード点滴静注用 100_100mg	60,233
アブラキサ点滴静注用 100mg	48,198
エンズプリング皮下注 120mgシリンジ_1ml	1,532,660
イエスカルタ点滴静注	32,647,761
照射赤血球液-LR「日赤」_血液400mlに由来する赤血球	18,132
パベンチオ点滴静注 200mg_10ml	195,761
ポライビー点滴静注用 30mg	298,825

※薬価は令和5年4月1日時点に記載 (出典：社会保険研究所 薬効・薬価リスト)

(全医薬品に対して36.2%)

高額かつ使用量が多い医薬品 オプジーボ及びキイトルーダ使用金額の推移(令和3年度～令和5年度)

(単位：億円)



2年間で
108億円の増加

薬価は徐々に引き下げ

R3 約11万回 (オプジーボ240mg薬価 413,990円)

R4 約14万回 (オプジーボ240mg薬価 366,405円)

R5 約16万回 (オプジーボ240mg薬価 366,405円)

使用回数の増加により、医薬品の使用金額は急増

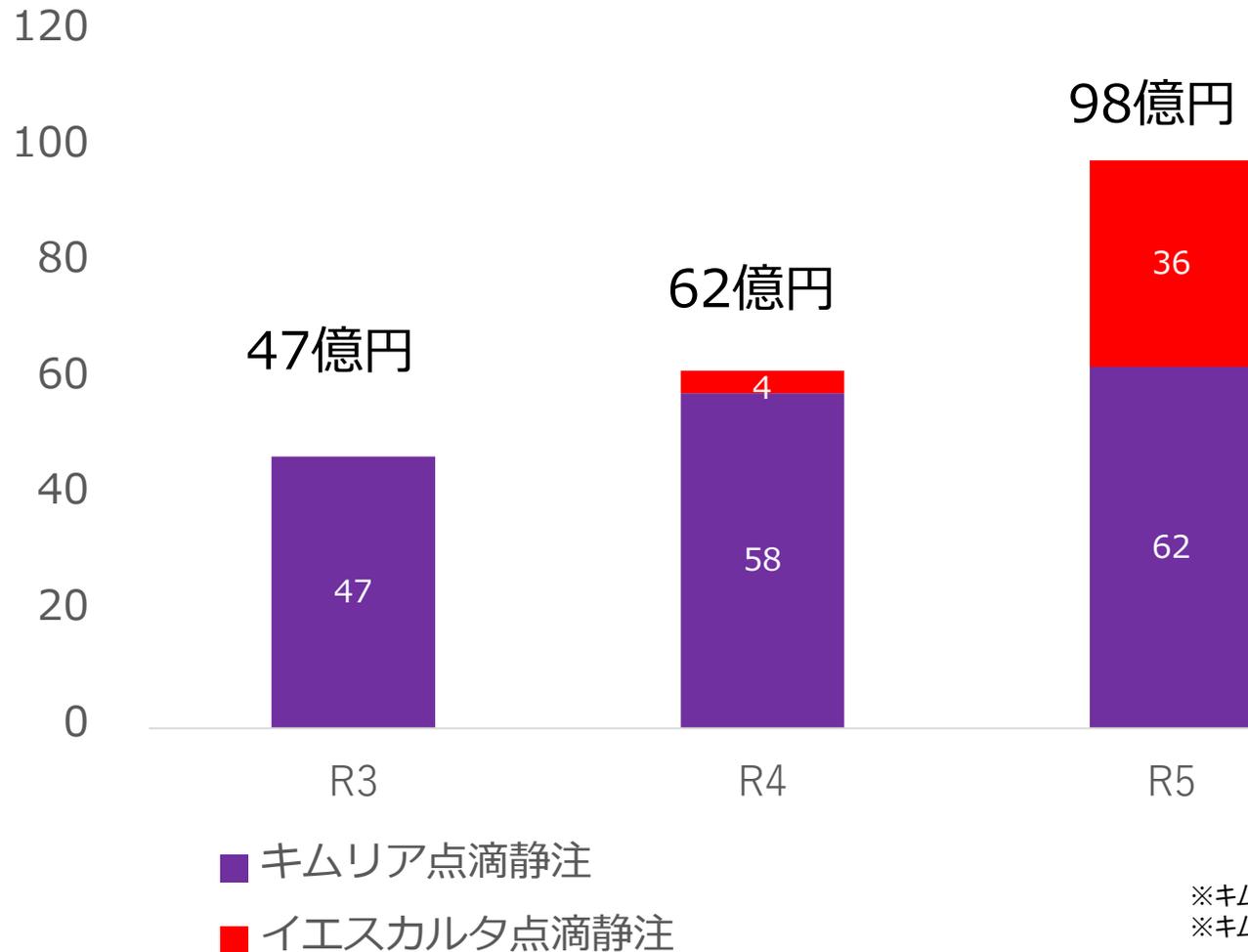
※オプジーボ…抗悪性腫瘍剤 (効能：悪性黒色腫、切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌 等)
 ※キイトルーダ…抗悪性腫瘍剤 (効能：悪性黒色腫、切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌 等)

※国立大学病院の使用回数は、国立大学病院管理会計システムHOMASから算出

※薬価は各年度4月1日時点に記載

3,000万円を超える超高額医薬品 キムリア及びイエスカルタ使用金額の推移(令和3年度～令和5年度)

(単位：億円)



2年間で
51億円の増加

3,000万円を超える医薬品の使用増加により、
医薬品の使用金額は急増

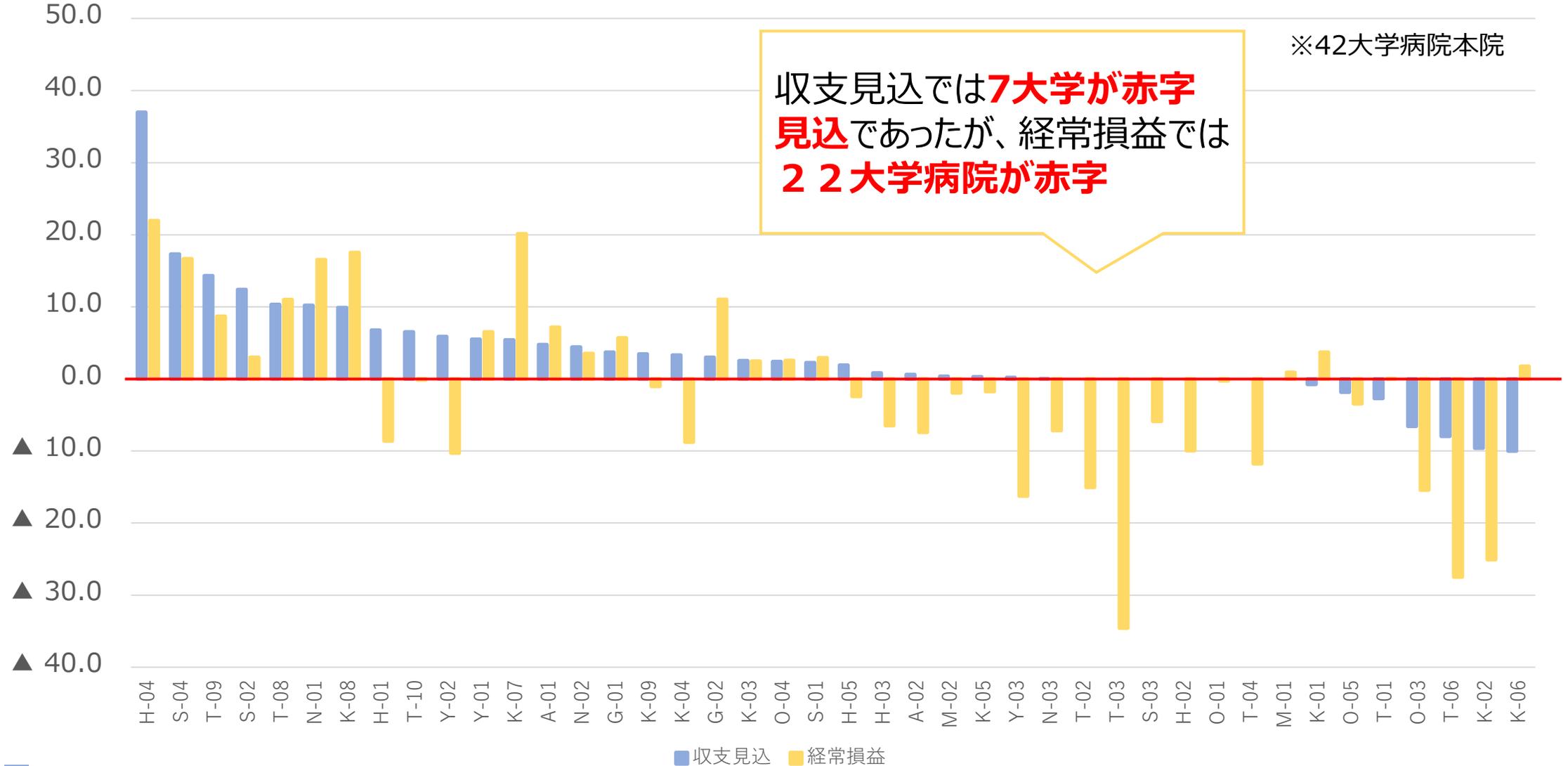
キムリアの全医療機関における**R5国立大学
病院金額割合は、49.6%**となっている。

※キムリア：国立大学病院の使用金額は、国立大学病院管理会計システムHOMASから算出(R5 62億円)
※キムリア：全医療機関の金額は、ノバルティスファーマHPの売上高参照(R5 125億円)

※キムリア…再生医療等製品（効能：再発又は難治性のCD19陽性のB細胞性急性リンパ芽球性白血病[諸条件あり]）
※イエスカルタ…再生医療等製品（効能：再発又は難治性の大細胞型B細胞リンパ腫[諸条件あり]）

令和5年度収支見込、経常損益 比較（速報）

(単位：億円)



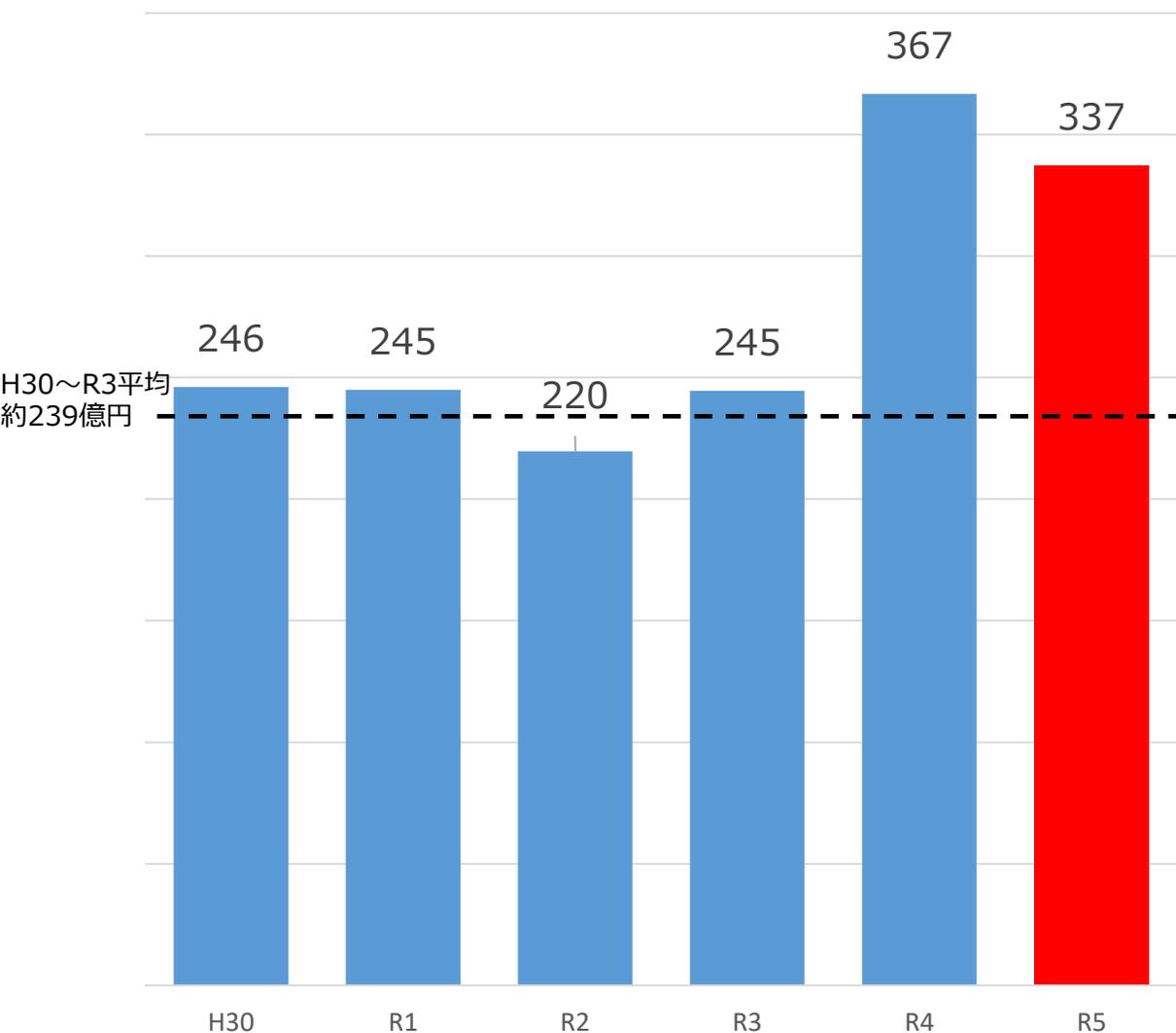
■ 収支見込は、R6.5.10記者会見時点

■ 経常損益は、病院セグメントにおける「経常利益（又は経常損失）」から算出

光熱水費高騰の影響

(単位：億円)

光熱水費



約98億円
高騰

- 令和4年度比▲29億円の減額であるが、平成30年度から令和3年度の平均値と比較すると、約98億円高騰しており、全体の赤字▲60億と比較すると、その影響の大きさがわかる。
- 令和6年度も引き続き、高止まりの状況が見込まれる



高度医療を安定的に提供するうえで、電力削減困難な装置も多い大学病院は、費用の増加が大きい。

診療報酬改定に伴う賃上げの影響

- ベースアップ評価料等の診療報酬改定に伴い、A大学では3億円増収 賃上げ対応による3億円支出増、B大学では2億円増収 賃上げ対応による2億円支出増（2024年7月調査時点）



- **増収額は賃上げ対応に使用するため、処遇改善による人員確保に好影響を与えるが、病院経営は好転しない**

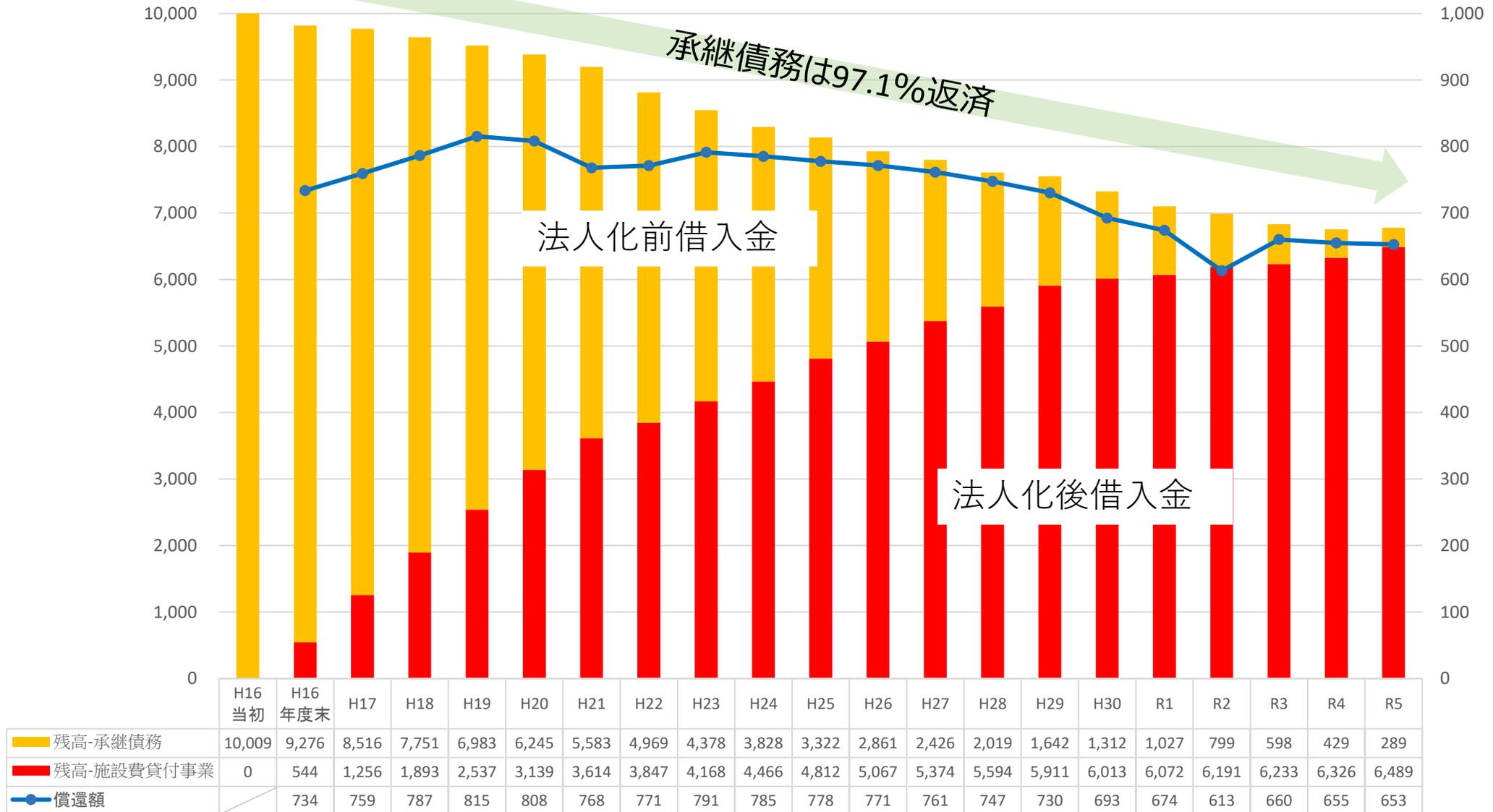


- 高熱水費の高騰等により利益が圧迫されるなか、高度医療の提供に必要な施設・設備の更新を行わねばならず、病院経営は極めて厳しい局面にある
- 経常損益が赤字となった令和5年度に引き続き、令和6年度に病院経営が持ち直す要因は見当たらず、特定入院料減額の可能性がある大学も複数生じている
- さらに、病院経営を圧迫している主要因に**借入金の返済**がある

借入金の残額変化（法人化前借入金と法人化後借入金）

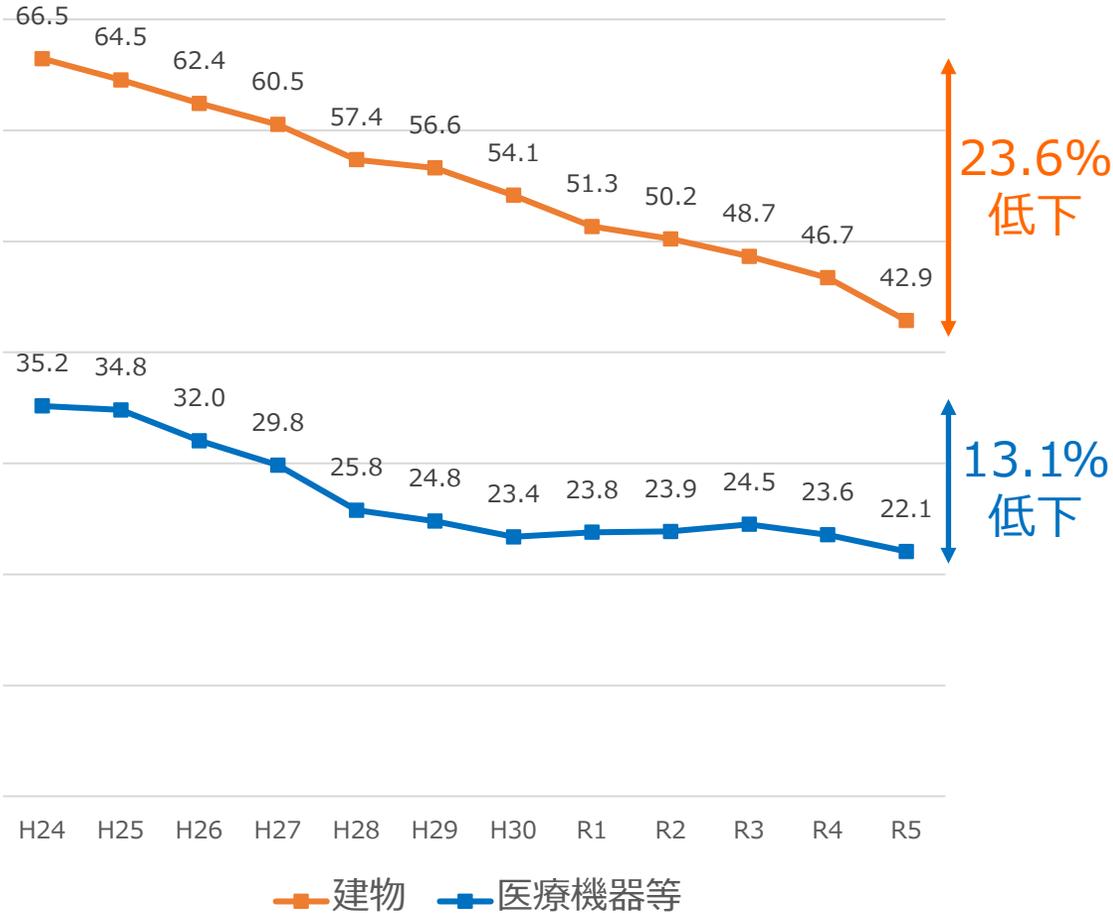
法人化時 1兆9億円の承継債務
(グラフの残高数値は各年度末時点)

借入金残高および償還額の推移(単位:億円)左軸:残額、右軸:償還額



借入金返済額以上の建物・医療機器等の老朽化

価値残存率



平成24年度と比較し
 建物価値残存率は23.6%低下
 医療機器等価値残存率は13.1%低下

令和5年度末の建物は1兆4,047億円 (取得価格ベース)
 令和5年度末の医療機器等は9,087億円 (取得価格ベース)

平成24年度と同じ価値残存率を維持するためには、
 建物取得価格で3,315億円不足
 医療機器等取得価格で1,190億円不足
合計4,505億円不足

建物・医療機器等の更新を抑制し借入金を返済したことにより、借入金の残額は平成24年度と比較し1,516億円減額となっているが、その結果、建物・医療機器等の老朽化は急激に進んでいる

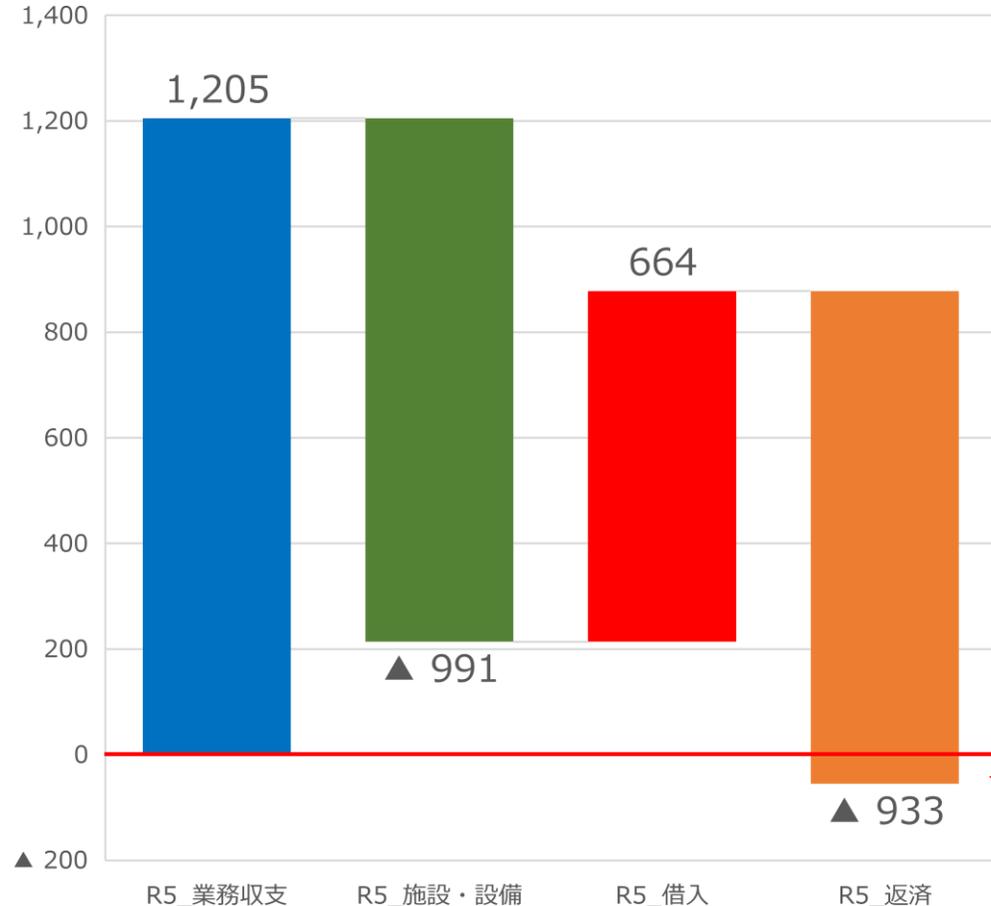
※価値残存率は病院長会議事務局の保有データで最古の平成24年度から記載

【参考】平成16年度と比較し借入金の残額は3,231億円減額

令和5年度 キャッシュフローについて

令和5年度 キャッシュフロー (CF) 外部資金を除く

(単位：億円)



I 業務活動による収支の状況	1205億円
II 投資活動による収支の状況	▲991億円
III 財務活動による収支の状況	▲269億円

IV 収支合計 ▲55億円

※投資活動による収支の状況… 診療機器等の取得による支出及び病棟等の取得による支出等
※財務活動による収支の状況… 借入による収入、借入金の返済による支出、リース債務の返済による支出等

55億円の赤字

国立大学病院長会議 令和6年現在の新体制・組織図

国立大学病院長会議の概要

2024.7.1現在

- 名称：一般社団法人国立大学病院長会議（NUHC National University Hospital Council of Japan）
- 所在地：東京都文京区
- 組織：全国42大学44附属病院長で構成する団体

理事（会長）	大鳥精司	（千葉大学医学部附属病院長）
理事（副会長）	田中 栄	（東京大学医学部附属病院長）
理事（副会長）	野々村祝夫	（大阪大学医学部附属病院長）
理事	渥美達也	（北海道大学病院長）
理事	張替秀郎	（東北大学病院長）
理事	藤井靖久	（東京医科歯科大学病院長）
理事	丸山彰一	（名古屋大学医学部附属病院長）
理事	高折晃史	（京都大学医学部附属病院長）
理事	前田嘉信	（岡山大学病院長）
理事	中村雅史	（九州大学病院長）
理事	塩崎英司	（事務局長）
監事	渡邊博之	（秋田大学医学部附属病院長）
監事	鈴木裕子	（鈴木裕子公認会計士事務所）

• 目的

国立大学法人法に定める法人により開設された病院（国立大学病院）における診療、教育及び研究に係る諸問題並びにこれに関連する重要事項について協議し、相互の理解を深めるとともに、意見の統一を図り、我が国における医学・歯学・医療の進捗発展に寄与する。

国立大学病院長会議 組織図

2024.7.1現在

